

「これ以上無理」と感じた。事故は起こしたくない。撤退を決めた。Kも同意。決まれば長居は無用。ガンガン下る。所が下からゾロゾロ上って来る。全部で10名はいただろか。

中に女性が1名いた。ちょっと古いタイプのスパッツを履いていた。この方と翌日、意外な所で再会するとは、その時、全く予想しなかった。



西黒尾根
ブナ殻斗



そば処「坪の庵」



ベース・プラザから水上に下ると天気は良い。だが、山は真っ黒。やっぱり、上越国境は特殊な天気なのだ。腹が減った。水上 IC 手前にイイそば屋があった。

感じの良い店に入ると、更に嬉しいことに JAZZ がガンガン流れていた。60代後半くらいのオヤジが好きらしい。以前は、宝台樹の食堂で働いていて、脱サラで始めたという。そばは空腹に美味しかった。やっぱり地方に来たら、地元の「美味しい、そばを喰ってみたい」(笑い)

関越を沼田で降り、迦葉山に向かう。今回は、富士宮・あさぎり山の会と交流登山だった。あさぎりは、今朝出発して迦葉山に上っていた。この時間では、既に下山したかもしれない。時間がないので林道はフルに使って、迦葉山・弥勒寺駐車場着。気温は低いが、天気は良く、明るい日差しが、降り注いでいる。やっぱり、山は天気が良くなくては・・・。

境内に入ると丁度、あさぎり山の会がゾロゾロ降りて来た。谷川岳に居るハズの我々が現れ、意外な様子という感じだった。

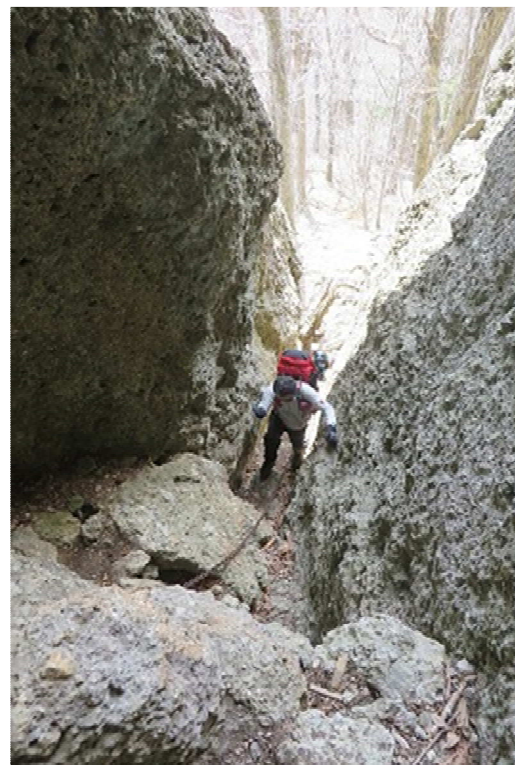
おかしな所を潜って登山開始。杉の巨木の中を上ると、坊主岩と呼ばれる巨石がある。真ん中に大きなチムニーが走り、そこを潜り上るのが「胎内潜り」といわれる。鎖が設置されているので、全く難しくはなかった。上部に達すると雪が多かった。その上が頂上だった。谷川方面は全く見えなかった。雪花がチラチラしていた。やっぱり冬型が強いのだろう。

ビアを一本いただき下山。寺の見学をする。この寺の本尊は、聖観音菩薩だが、別に「天狗の霊場」と呼ばれ、天狗を祭っており、大小様々な天狗が祭られていた。ここから川場温泉に向かい、あさぎり山の会がいる「福寿荘」に着いた。

あさぎりは既に宴会状態。ぬるい風呂に入って我々も参戦。私は土産に「菊水のドブロク・五郎八」を持参。皆さん、「爆酔い」を恐れつつも、大いに喜んで貰った。



坊主岩「胎内潜り」
難しくない





大小の天狗様



21日(月) 武尊山・高手新道＝曇り～晴れ～曇り

起床5:00－再び西黒尾根に向かう－引き返す－高手新道取り付き8:00－高手山－
西峰10:23－リフト終点－剣ヶ峰山11:20－あさぎりと行き交う11:49－武尊山
12:27－剣ヶ峰山－リフト13:54－スキー場14:16－尾根取り付き14:45－
「いこいの湯」－関越－厚木－下土狩22:00

標高差 上り 高手尾根取り付き約1150m～武尊山2158m＝約1008m

下り 剣ヶ峰山下からリフト利用

(上り返し多い)

百分の二・長い長い高手新道を上る

昨夜は、夕食後21:00ころまで、カラオケで盛り上がった。久しぶりにあさぎり山の会と交流は楽しかった。朝、今日は冬型が緩んだかも知れないと、素早く起床し早めに朝食を頂いて、再び谷川岳に車を飛ばした。ところがどうだろう、やっぱり土合に着いたら雪が舞っていた。天気は回復しなかったのだ。

再び武尊山に戻る。こちらの天気は良かった。民宿の前を通過すると、丁度、あさぎりが出て来た。しかし、我々は標高1860mまで「リフトで上る登山はしたくなかった」。ここは、山屋の意地で、リフトを使わず下から上りたいものである。高手新道取り付きの、川場キャンプ場を探したが分からなかった。

よく観察すると、川場スキー場駐車場の二つ手前のカーブが対岸に渡れた。しかも、杣道がジグザグに上っていた。これはラッキー。雪の丁度良い、快適な急斜面ひと上りで高手新道に出た。この辺りは開放感のある唐松の尾根だった。ところがよく見ると、先行者の足跡が一つあった。「こんな所を上るモノ好きもいるんだな～」感心。

連日の登山で疲れた体にムチ打って上る。右手のスキー場から場内アナウンスが五月蠅い。フツと見上げると青いヤッケが見えた。先行者らしい。近づくと単独の若い女性だった。聞けば群馬の方という。良く見ると何となく何処かで見たような・・・。ハテナ、聞いてみた。「昨日、ひよっとして、西黒尾根にいませんでしたか??」ビンゴだった。我々が下山時、上って来た方だった。それにしてもこんな所で再会するとは・・・。しかしその後、彼女とは会わなかった。多分、武尊山には、上らなかったと思われる・・・。いや、それとも狐か狸だったか??!! (笑い)



高手新道尾根



唯一、会った方

上ったり下ったり、複雑な尾根が続いた。西峰下のリフトは運休だった。この部分はゲレンデを歩いた。そして漸く西峰着。ここまで2時間半掛かった。これを下ると剣ヶ峰下のリフト駅。あさぎりは、これを利用した。ここまで約3時間の差。気持ちを奮い立たせ剣ヶ峰山に向かう。天気が段々イイ感じになって来た。ガスで覆われていた武尊山が少しづつ見えて来た。

剣ヶ峰山を下って暫く進むと、あさぎり山の会、8名が降りて来た。リーダーのSさんは、我々がいることを驚き、キャンプ場から上ったと話すと、最初は信じなかった。

ここから頂上まで結構長かった。しかも、その日の登山者約100名中、我々を除く98名は、リフト登山で、その時間にゾロゾロ降りて来る。ゼイゼイ・ハーハーもがき上っている中、ルンルンで下って来る登山者は、いささか気分はよろしくない。それでも、「着かない、頂上はない」。5時間予定を、4時間半で頂上に着いた。疲れ果てていた。Kはよく頑張った。

寒いのですぐ下山。少し下った風のない所で遅い昼食。余り喉を通らなかった。程なくガスが切れ、武尊山・剣ヶ峰山が姿を現した。時間が早かった、あさぎり山の会は、この風景を見れたか？。下山は、リフトに乗った。そういえば、先ほど会った女性は歩いて下山と話していた。ま、頂上まで来ないのなら、それも可能かも。

流石にリフトは楽だった。右手に西峰までの厳しい上りの尾根が見えた。終わってみれば、イイ山だった。「リフトを使わないで良かったと思った」。山で飲めなかったビアを一本頂いた。サイコーに美味かった。リフトに乗るとき、何処かのスキーヤーに、「下りだけでも、料金は同じに取られる」と聞いていたが、係りの好々爺は、手で「イイよ、イイよ」といつてくれた。

ラッキー。ここのリフトは高く1800ーと聞いている。これは我々の「ご褒美」と思った。スキー場から取り付きまで、道路をブラブラ歩き終了。連日登山でなかなか厳しかったが、イイ山でした。

参加者の一言

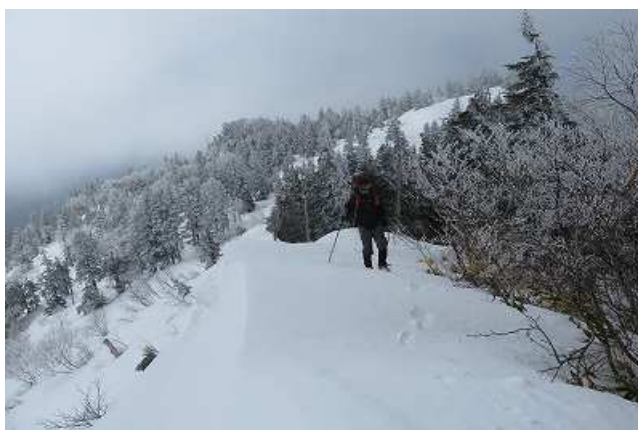
勝又陽

庄野



熊の爪跡

厳しい上り



西峰 ↑

あさぎり山の会
ご一行様





武尊山 ↓ 剣ヶ峰山



武尊山頂上

おわり